



シラネアオイの群落と単独

今回は佐渡の金北山である。この時期は花の綺麗な季節であるということで、例によってジイさんバアさんツアーも4組くらい出会った。それにチャリンコ・ツアー大会も重なって、往きのフェリーは結構混んだ。毎日新聞旅行は、例年は2組の佐渡ツアーを組んでいるということであるが、今年は一組に絞った影響が出たのか客数29人である。かくいう私めもかろうじてキャンセル待ちでモグリ込めたひとりである。これに酒井さんを頭とするツアーガイドに、地元佐渡の山案内人のイケメンお兄ちゃんの塚本さんを入れると32人の大所帯である。

金北山登頂日の天気予報は晴れであったが、朝から雲は厚い。出発点のドンデン山荘までバスで行く。この地点ですでに890mである。金北山が1172mであるからなんともチョロイ一日になる予定であった。しかし曇り空に加えて風が強く寒い。

佐渡には鹿や猪がいないらしい。そのために残っている高山植物が多いという話を披露してくれた人がいた。真偽のほどは分からないが、大佐渡山脈の稜線全体にあるシラネアオイとカタクリの大群落が本当かなと思わせるものがある。東北の山にはシラネアオイがたくさんある。しかしこの佐渡のようにまとまって咲いているのは見たことがない。カタクリの場合も同様である。カタクリなどという花は、林の中で隠れるように咲いている



閉じたカタクリと開いたカタクリ

ものだと思っていたが、必ず林の中にあるというところまでは里に咲くものと同様であるが、どこまでも続いて咲いているというのは見たことがない。ただし残念ながら、この日の深く垂れこめた雲のためになかなか花を開いてくれることがなかった。午後になって晴れ間も覗かれるようになってからようやく開くものもあったが、完璧に開いたのを見たのは翌日の完全に晴れになってからであった。日が昇ってからでないと開かないといわれているが、湿度との関連もあるのかもしれない。



ザゼンソウ

ここのザゼンソウはバカでかいという特徴があった。これほど存在感のあるザゼンソウも珍しい。



ニリンソウ

ニリンソウは、ポツン・ポツンと咲いていると目立たない花であるが、群落す

ると結構品のある咲き方をする。

エンレイソウはコキタネエ花を咲かせる。花というのは、華々しく咲いてハチやチョウを呼び寄せるためのものであるところろえてはいるが、こんなキタネエ花に呼び寄せられるヤツがいるのかねえ。

ヒトリシズカも群落であった。ヒトリシズカなどという名前からは、歌劇「トゥーランドッド」のお姫様のようにツンとして、真っ白か薄紫で大きな凜とした花であってほしいが、この花の名前をつけた人に理由を聞いてみたいところである。(俺はオリンピックで「トゥーランドッド」の曲に乗って金メダルを取ったイナバウアーの姿をした荒川静香と混同している) 群れになって咲いているところなんかは、井戸端会議をやっているオカミさん達みたいで名前負けだ。

毎日新聞旅行のカタログには、アイゼンマークが書いてあったが、最終確認の装備表にはアイゼン不要との書き込みがあった。ツアーリーダーの酒井さんは、もしかしたら必要と思っているフシのことを言っていた。今更そんなこと言われたって困るよと感じたが、そのことが理解できる場面が出てきた。金北山まであと一歩という最後の登りのところで雪壁に出会った。“ヤベー”と感じたが、行ってみた



らアイゼン不要の意味がわかった。佐渡の山岳ガイドの手で大きくシッカリとしたステップが切られていた。確保のための固定ザイルも張られている。これなら絶対安全である。金北山頂上には、赤サビの浮いた自衛隊のレーダーの痕跡がそびえている。今は近くの山に新しいレーダー基地ができたから使用していないのでこんな姿になっているのだという。それはないよ、天下の自衛隊ではないか。潰れたスキー場がリフトを赤サビだらけにして放っていることに対して憤りを感じる人が多いが、自衛隊よお前まで。国土を守るべき自衛隊が、自然を粗末にしやがって。これじゃあ戦争やったらって負けるよ。韓国・中国・



金北山頂上でイケメンガイドと

北朝鮮よ今だぞ、日本を叩くのは。こんなところに神社も同居している。ほんと日本人はわかりづらい。狐や猿だって神様にしちゃうし、家康や明治天皇は神様にしたけど、昭和天皇はしていない。靖国神社をガイジンに理解させることはできっこないよ。日本人にだってわかっていないんだから。集団的自衛権より神社設定基準のほうが先だ。



金北山頂上の神社